

むら
ディスカバー農山漁村の宝
(第8回応募団体)

取組事例集

高知県



【お問い合わせ先】

中国四国農政局高知県拠点地方参事官室
〒780-0870 高知県高知市本町4-3-41 高知地方合同庁舎
☎088-875-7236

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号
☎086-224-4511 (代表)



令和4年3月
中国四国農政局

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和3年度）で8回目となります。

中国四国農政局管内では171件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として7地区と2名が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区（者）の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として13地区と2名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として22地区を選定しました。

また、今年度応募のあった地区（者）の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和4年3月
中国四国農政局農村振興部

目 次

- 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について …… 1
- 応募地区(者)一覧 ……………6
- 応募地区(者)位置図 ……………7
- 応募地区(者)の取組事例 ……………8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回選定）では、令和3年6月16日から8月31日までに、農山漁村活性化の取組として全国から651件（管内からは171件）の応募があり、令和3年11月19日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回選定）有識者懇談会において、団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）で34地区と個人部門で4名が「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として選定されました。

中国四国農政局管内からは7地区と2名が選定され、その中から優秀賞の個人部に岡山県岡山市の「植田輝義」、優秀賞のコミュニティ部門に徳島県神山町の「神山しずくプロジェクト」、特別賞に広島県庄原市の「株式会社敷信村農吉」、徳島県阿南市の「黒川真太郎」、愛媛県伊方町「愛媛県立三崎高等学校『せんたんプロジェクト』」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった171件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和3年10月27日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、13地区と2名を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として22地区を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
オリジナルロゴマーク

3. 管内選定地区（者）の概要

(1) 全国版選定（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第8回選定））

植田 輝義（岡山県岡山市） **優秀賞**

- 地元特産の黄ニラと岡山パクチャー大使として、メディアや祭への参加により産地をPRするとともに、学校、福祉、企業とも連携。
- 岡山交通（株）とコラボし、「黄ニラタクシー」を誕生。タクシー乗務員への農業指導も実施。



2021年国和産業株式会社コラボ
パクチャーゼリー完成

草間台エコミュージアム推進協議会（岡山県新見市）

- 草間台地の自然・産業・歴史文化等の宝物を発見し、それらを護るとともに発信し、地域振興に貢献。
- 地域を自然、産業、歴史文化等の宝物にあふれる「エコミュージアム」（屋根のない博物館）と捉え、里山の維持保全等を実施。



小学生の洞窟探検

株式会社敷信村農吉（広島県庄原市） **特別賞**

- 里山の自然を活かした保育所の運営を軸に、農産物やチーズの製造・販売等の地域密着型の事業を展開。
- 保育所では、園庭での野菜栽培、自社農園の農産物を使った給食の提供など、「身土不二」を教育。



地元生乳100%の手作りチーズは
国内外で高評価

株式会社63Dnet（山口県長門市）

- 地域食材を使った、コロナの状況でも強い商品づくりと幅広い販売チャンネルの確立により、地域事業者の収入確保に貢献。
- 農業生産者が6次産業化を行うために必要な施設や専門知識・ノウハウを補完し6次産業化を支援する「ながとラボ」を運営。



地元産マルシェ「LaLa フラン」

黒川 真太郎（徳島県阿南市） **特別賞**

- 農業・食品加工・販売の3本柱の小さな6次産業を実践するとともに、子育て環境の充実として学童保育を立ち上げ運営。
- 環境保全型農業での農産物づくりを実践。お米の消費拡大のため、パンや菓子等の食品加工、全国の消費者へのネット販売も実施。



毎月1回JRT(四国放送)ラジオで
活動等の情報発信

神山しづくプロジェクト（徳島県神山町） **優秀賞**

- 山林課題の啓発活動、町産材を活用した商品開発・販売など、地元産業振興により地域活性化に貢献。
- スギの弱点とされる赤白の木目を活かしたデザインの木製品を開発。地域おこし協力隊制度を活用した職人育成事業も実施。



スギにしか出来ない赤白の杓目が
美しい木製品

「高松盆栽の郷」推進協議会（香川県高松市）

- 国内外に向けた高松盆栽の情報発信と担い手の育成による JA 香川県「高松盆栽の郷」の発展に向けた取組。
- 4ヶ国語対応のウェブサイト等により国内外に高松盆栽の紹介・販売を実施。令和2年度はオンラインでのオークション等を実施。



高松盆栽オークション
盆栽紹介ライブ配信

愛媛県立三崎高等学校「せんたんプロジェクト」（愛媛県伊方町）

特別賞

- 高校生が主体となる地域の魅力開発及び発信により、伊方町の関係人口の増加と移住・定住者数の確保に貢献。
- 全校生徒をPR活動等、カフェ、商品開発、ツアー、アート、防災の6つのグループに分け探求活動を実施。



みさこう Café

吉延営農組合（高知県本山町）

- 地域の持続可能な営農体制づくりに加え、棚田散策ツアーの実施など地域活性化を目指した幅広い活動を実施。
- 集落一体となって防護柵の設置等の獣害対策を行っているほか、田んぼアートや棚田コンサート等の都市との交流事業も実施。



吉延集落の棚田

（2）地方版選定（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

株式会社大山こむぎプロジェクト（鳥取県米子市）

- 鳥取県産の小麦「大山こむぎ」を生産し、地元を中心としたパン屋や飲食店をはじめ、学校給食にも供給。
- 生産者の顔（名前）の見える商品展開を行い、生産農家の生産意欲を向上。小麦生産量の増加に取り組む。
- 生産、製粉、流通と連携する鳥取県産小麦の地域商社。



創る会（利用者）と生産者の懇親会
～食べる会～

ふなおか共生の里づくり推進協議会（鳥取県八頭町）

- 次世代への取組として保育園や小学校の田植え体験を実施。
- 多面的機能支払制度の広域協定への参加により、地域の保全活動に取り組む。
- 集落と協議会で実行委員会をつくり、交流体験農園や農泊の受け入れを行う。



交流体験で梅ぼりを教える

有限会社旭養鶏舎（島根県大田市）

- えごま玉子の生産と、自社工場で加工品（25 アイテム）の製造を行う。
- 大学や病院と連携し、えごま玉子を食べることの効果について検証。
- ITとオートメーション化、6次産業化を積極的に進め、社員の半数近くが女性。女性役員・管理職の登用も積極的に行っている。
- 耕作放棄地を活用し、退職者や高齢者によるエゴマ栽培を行う。



えごま玉子

株式会社西粟倉・森の学校（岡山県西粟倉村）

- 木材加工品づくりの製造工程で出てくる端材を、DIY ユーザーに一点モノ端材としてお値打ち価格で販売。
- 人口約 1,400 人の村に 620 人も来客するような、モノづくり体験や端材の購入ができるイベントを開催（令和3年春に2日間開催）。



販売する端材製品のイメージ

万古溪養魚観光株式会社（広島県廿日市市）

- 川と海の養殖業者が卵から成魚まで一貫生産し、1年目の種苗から海面飼育した大型種苗により成魚の早期出荷と大型化を実現。
- 養殖場に釣堀を設置。釣った魚をその場で楽しめる食事処を併設。
- 市内の短期大学と連携し、「誰でも気軽に食べられるニジマスレシピ」を考案。魚食普及に取り組む。



子供から大人まで楽しめる釣堀施設

FAM'Sキッチンいわくに（山口県岩国市）

- 直売所における独自の集出荷システムを用い、岩国地域全域から出荷しやすい体制を整備。
- 店舗まで生産物を持ち込めない生産者のため、巡回トラック2台により毎日集荷。
- 陳列エリアを生産者に割り当て、自ら創意工夫した販売を展開。
- 売り切れなかった商品を生産者に提供。



遠隔地の産物を集約する巡回トラック

梅川 仁樹（山口県岩国市）

- わさびの超促成栽培について検証し、収益性の高い栽培技術を確立。
- 県農業士協会のリーダーとして、新規就農者等の支援に取り組む。
- 人・農地プラン等の話し合いに積極的に参加し、地域住民と課題や問題解決の共有を図る。
- 地元小学生に神楽を伝承し、伝統文化（向峠神楽）の継承に務める。



山口県農業士協会による研修

吉田 ますみ（徳島県美馬市）

- 耕作放棄地となっている茶畑再生と、集落のブランディングプロジェクトに取り組む。
- 未来の子供たちへ世界農業遺産に選ばれた農耕システムの継承と新しい農文化を生み出すふるさと協働事業に取り組む。
- 緑茶に関わる人々を増やし、その魅力や活動で感じたものを発信。



地元穴吹高校生との茶染め体験

（株）フードハブ・プロジェクト（徳島県神山町）

- 「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者の受入や、子供の農業生産、加工、販売等の体験を実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。



地域のみんなでつくる加工品の開発・製造

大野豆プロジェクト（香川県高松市）

- 休耕田を活用して夏は大豆・黒豆・小豆、冬は空豆（一寸及び「大野豆」）を栽培し、年間合計約 1.5 t を販売。
- 地元児童・生徒による豆栽培、豆腐・しょうゆづくり体験を実施。
- 地元産の豆類を使った「豆 de 家庭料理コンテスト」を実施。



大野小 5 年生児童の「大野豆」
収穫作業

みとよのみプロジェクト（香川県三豊市）

- 三豊市と地元生産者が連携して市内の魅力的な農産物の 6 次産業化や地域産品の開発に取り組み、地域農水産物のブランド化を推進。
- 生産者と商品を掲載した HP の制作や SNS 等により情報発信を行う。
- 展示会、商談会への参加やフェアを開催。



みとよのみプロジェクトで開発
された商品

チームそら豆（香川県小豆島町）

- そら豆醤油の原料となる国産の乾燥ソラマメがなかったため、農商が連携して原料を生産。
- 需要の増加に伴い、地域の特産品としての製造を維持していくために、原料の生産拡大を行う。
- 良いものを生産するためにほ場巡回や講習会を行うとともに、生産者と収穫物の全量買い取りの契約を結ぶ。



アレルギーフリーのそら豆醤油

愛媛県立川之石高等学校 GAP チーム（愛媛県八幡浜市）

- グローバル GAP 認証を取得した柑橘を使って、世界マーマレード大会へ出品。
- 柑橘や柑橘加工品の輸出、GAP 認証取得、GAP 学習会、販路学習などを地元企業 3 社と連携して実施。
- 被災柑橘農家応援のため、地元や東京で復興マルシェイベントに参加。
- 大学や農業大学の職員を講師に招き、柑橘園付近の鳥獣害対策について学習すると共に生物調査を実施。



柑橘 11 品目でグローバルGAP
認証取得

愛媛県立八幡浜高等学校商業研究部 A★KIND（愛媛県八幡浜市）

- 八幡浜市に水揚げされる「未利用魚」の活用を考案。
- 魚食の普及活動として、未利用魚を使った学校給食のメニューの考案や、クリアファイルで魚食マップを作成して配布。
- 未利用魚の定食提供ツアーの実施や、地元日曜市等のイベントでの販売活動を実施。



小学生との給食交流会



高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部（高知県高知市）

- 高校生が鳥獣被害という課題解決に向けてジビエ活用商品を開発。
- 高知県産の赤牛や規格外野菜を使用したジビエ商品を考案し、高校生ジビエ・レストランを出店して提供。
- 販売利益をシカなどの食害を受けた森林保護活動に寄付するとともに、植樹活動にも参加。



高校生ジビエ・レストラン出店

「ディスカバー農山漁村(むらの宝)」(第8回選定) 応募地区(者) 一覧 (高知県)

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	高知市	高知商業高等学校 ジビエ商品開発・販売促進部	ジビエ	鳥獣被害防止	学生・若者の活躍
②		コミュニティ	安芸市	入河内大根のこそう会	農林漁業	地産地消	伝統の継承
③		コミュニティ	香南市	西佐古みどりの会	環境保全・ 景観保全	高齢者の活躍	—
④		コミュニティ	本山町	吉延営農組合	鳥獣被害防止	環境保全・ 景観保全	交流人口の拡大
⑤		コミュニティ	いの町	農事組合法人 上東	環境保全・ 景観保全	高齢者の活躍	関係人口の拡大
⑥		コミュニティ	中土佐町	おおのみエコロジーファーマーズ	農林漁業	教育機関との連携	—
⑦		コミュニティ	梶原町	特定非営利活動法人ゆすはら西	ジビエ	鳥獣被害防止	食育・教育
⑧		ビジネス	四万十町	株式会社とおわ	地産地消	伝統の継承	女性の活躍

1

こうち
高知県高知市

ジビエ

鳥獣被害防止

学生・若者の
活躍



こうちしょうぎょうこうとうがっこう

しょうひんかいほつ・はんぱいそくしんぶ

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部

～ジビエを通じた循環型社会貢献活動～



高校生ジビエ・レストラン出店



植樹活動への参加

経緯

○森林率全国1位の高知県ではニホンジカやイノシシなどの野生鳥獣被害が深刻な地域課題の一つとなっている。野生鳥獣の食害被害状況や昨今のハンター不足と高齢化の現状、ジビエ利活用の可能性の話に興味を示した生徒たちがこの課題解決に向け活動を開始する。平成30年4月設立。

取組内容

○高校生が鳥獣被害という課題解決に向けジビエ利活用商品を開発。
○消費者からのアンケートをもとに、高知県産の赤牛や規格外野菜を使用したジビエ商品を考案し、高校生ジビエ・レストランの出店により提供。
○販売利益をシカなどの食害を受けた森林保護活動に寄付するとともに、実際に植樹活動に参加。

活動の効果

○一連の活動がきっかけで、「森林保護で陸の豊かさを守り、よりよい社会形成の実現に貢献する」という明確な活動目的を、生徒たちが自ら発見することができた。
○地域での販売会では高校生の頑張りを多くの方に応援いただくとともに、購入者の約80%が「ジビエと高知の有名食材(土佐あかうしや四万十ポーク、四万十鶏など)の組み合わせで、ジビエでも食べてみたくなる」と回答するなど、ジビエに対する抵抗感や先入観を緩和。令和4年度でジビエ利用数量1トンを達成する見込み。

応募団体からのアピール・メッセージ

私たちはジビエ利活用による商品開発・販売活動にとどまらず、その利益を森林保護活動に寄付しています。森林県高知の持続可能な社会づくりに貢献していきます。

高知市大谷6番地 Tel: 088-844-0267

にゅうがうちだいこん

かい

入河内大根のこそう会

～「入河内大根」で地域おこし～



学生の収穫体験



入河内大根を使った料理

経緯

- 入河内地区だけで栽培されてきた伝統野菜であった入河内大根が、他の大根と交雑して失われる危機に直面。
- 平成18年、地域の農家を中心に入河内大根の栽培を通じた地域活性化のため、「入河内大根のこそう会」を結成。

取組内容

- 共同圃場(2a)を設け会員が共同で栽培。収穫体験や調理の体験交流など、まちとむらの交流を促進。
- 野菜ソムリエ等を通じて、県内有名ホテル、レストラン、料亭等に提供。
- 地元の指定管理者の温泉施設と連携し、「入河内大根」をメニュー化。
- 量販店や市場を通じた販路の拡大。

活動の効果

- 入河内大根を使った料理がメニュー化され、高知県を代表する伝統野菜としても知名度が向上し、地域住民の意識も変わり、入河内大根が地域の代表作物であると誇りを持つようになった。また、入河内大根が地域内外とのコミュニケーションの媒介として大きな役目を果たしている。
- 地区住民に種を無料配布し、栽培人口が17人から20人に増加(H25→R2)。栽培面積も休耕田を活用し、30aから40aに増加(H25→R2)。

応募団体からのアピール・メッセージ

入河内大根の伝承のため、栽培や調理方法の研究、レシピの配布などに取り組んでいます。

にしきこ かい
西佐古みどりの会

～地域住民が一体となった農村環境づくり～



遊休農地発生防止のための保全活動



咲き誇るアジサイ

経緯

- 平成21年6月に地元自治会を中心として「西佐古みどりの会」を設立し、農村環境保全の一環として景観形成・生活環境保全活動の取り組みを開始。
- 農業者・地域住民・団体が一体となった体制をつくり、農地維持・地域資源の向上に取り組む。

取組内容

- 農業者・地域住民・団体が一緒となった体制をつくり、水路の草刈り等の農地維持・地域資源の向上に取り組んできた。
- 毎年3回（5月・7月・10月）、自治会が中心となり、地域住民と連携したアジサイの植栽・剪定・草刈り・清掃等、きめ細やかな活動で景観形成に貢献。

活動の効果

- 地元の農業者だけでなく土地持ち非農家や地区の団体と協力して農道・水路の草刈り等の維持管理を行うことで、地域の団結力が深まる。
- 農村環境保全活動によるアジサイの植栽活動により地域住民との交流も図られるなど、高齢化で厳しい状況の集落に明るい希望を与えた。
- アジサイの植栽が地域の観光スポットになるなど地域内外の住民の交流の場が広がり、地域の活性化に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

開花中の6月には、毎年TV局が取材に訪れており、1.2kmに及ぶ約19,000株のアジサイを、地元だけでなく県内外から多くの愛好者が観賞に訪れます。家族連れや友人の方と一度のんびり歩いてみませんか？

4

もとやま
高知県本山町

鳥獣被害防止

環境保全・
景観保全交流人口の
拡大よしのぶえいのうくみあい
吉延営農組合

～吉延の自然・棚田の原風景を将来へ～



吉延集落の棚田



田んぼアート田植え作業の様子

経緯

- 平成12年から中山間地域等直接支払制度の参加をきっかけに、地域の農地を地域で守っていくという意識が醸成。
- 共同で農道の舗装や機械の購入・利用を進め、農村環境の保全や持続可能な営農体制の確立を図り、平成19年1月に吉延営農組合を設立。

取組内容

- イノシシによる水稻被害が増加したため国からの交付金を活用し、防護柵を設置。
- 集落内へのライスセンターの設置、営農組合で使用する共同機械を整備し農作業を受託するなど、高齢者も営農が可能な体制づくりに取り組む。
- 高知大学や各関係機関と連携し、田んぼアート、棚田コンサートや棚田散策ツアーを開催し、交流人口の拡大を図る。

活動の効果

- 共同機械の整備、農作業受託や鳥獣被害防止対策などに取り組んだことにより、集落内で持続可能な営農への体制づくりに繋がっている。
- 地域資源である棚田を活かしたイベントの実施や棚田を見渡せる展望台と駐車場を整備、県内外からも人が訪れるようになった。
- 加工品開発、地域の伝統行事も当組織が中心を担うなど、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりができ、他地域のモデル的な組織となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農地の保全活動にとどまらず、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりを見せ、集落になくはならない組織となっています。組織の体制強化や人材確保に努め、農村環境の維持・発展を目指します。

高知県長岡郡本山町本山504(本山町まちづくり推進課) Tel:0887-76-3916

のうじくみあいほうじん

じょうとう

農事組合法人 上東

～未来へ生き生きと暮らせる上東を目指して～



農事組合法人上東 設立総会



ドローンによる試験防除作業

経緯

○平成12年度から各集落(6協定)で中山間地域等直接支払制度に取り組んでいたが、耕作者の高齢化及び担い手不足による農地荒廃等の課題が生じた。平成21年度に地域の農地維持の核組織「上東地区営農組合」を設立し、統合。平成31(2019)年1月に「農事組合法人上東」を設立。

取組内容

- 荒廃農地を再生し、地域の農地を守る活動を開始。集落営農組織主体で水稻機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。
- 酒米の栽培やニラ、加工用ワサビなど新たな園芸品目を導入。
- 親子層を対象とした水稻農作業体験を実施し、都市住民との交流を図る。

活動の効果

- 共同機械の利用面積の維持拡大。
 - 農作業受託面積及び新規作物(ニラ、加工用ワサビ等)の栽培面積拡大。
 - ユズ栽培による耕作放棄地の解消及び発生防止。
 - 「カタシの花祭り」の開催を通じてミュージシャンの山村誠一氏とつながり、共同で上東PAN(スティーλπ)の学校運営開始。地区外の上東地区ファンが増加。
- 平成27年度多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰 中山間地域等直接支払部門最優秀賞受賞

応募団体からのアピール・メッセージ

地域住民一体で、中山間地域での農業の大切さ、農村集落の素晴らしさ、田園風景の維持に取り組んでいます。上東PANの学校を見に来てください。

高知県吾川郡いの町上八川甲1934(いの町吾北総合支所産業課) Tel:088-867-2313

おのおみエコロジーファーマーズ

～自然を大切にしながら消費者に選ばれる米作り～



大野見小学校児童との水生生物調査



高知県立大学COME☆RISHの稲刈り体験

経緯

- 古くからおいしい米の産地として知られる大野見地区において、大野見米を通じて地域・農業の活性化に取り組む「おのおみエコロジーファーマーズ」。
- 大野見米をとおして、将来に望みの持てる産業を確立し、環境保全型農業で四万十川源流域の豊かな自然を次世代に引き継ぐ活動を行う。

取組内容

- 高知県立大学健康栄養学部の学生で結成された「COME☆RISH」と連携し、大野見エコ米のPR活動を実施。
- 地域の将来を担う小・中学生に、環境保全型農業を行うほ場周辺にどんな生物がいるかを調査する「学外・地域体験学習」を実施。

活動の効果

- 学外・地域体験学習により、将来を担う小・中学生が地域に愛着を持ち、地元で就農することを考える契機となることを期待する。
- 米の栽培に使用する肥料を大野見地区で出た牛堆肥を用い、畜産施設からの廃棄物の地域内循環を実現している。
- ブランド米を栽培する農業者・団体を視察し、稲作の栽培基準や栽培方法等を見直した。

応募団体からのアピール・メッセージ

化学肥料、化学農薬を地域慣行栽培の半分に抑える環境保全型農業により、水路や河川がきれいになり、活動も徐々に実を結びつつあります。今後も活動を継続し、大野見で農業や稲作で生きていけるよう頑張ります。

とくていひえいりかつどうほうじん

にし

特定非営利活動法人ゆすはら西

～ジビエでマイナスからプラスへ～



獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入



小学生が自由課題でジビエを取上げ 食育へ!

経緯

○農産物への獣害をなくすために、捕獲するシカやイノシシ等の命を無駄にしたくないという思いから、有効活用策として自家消費をする動きが出始めた。ここから発展した「『ジビエ』をお金に換える仕組み」として NPO 法人を設立し、人も物もお金も循環する活力ある地域づくりを開始した。

取組内容

- 獣肉解体処理施設の建設と、ジビエカーの導入(平成29年度)。
- 上記の運営者となる特定非営利活動法人ゆすはら西を設立(平成30年3月)。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用(平成30年4月)。
- 農林水産省の「国産ジビエ認証」を県内で初取得(令和元年12月)。
- コロナ禍においても、新たな商品開発や梶原町のジビエの魅力を発信。

活動の効果

- ジビエカーを導入し、松原地区を中心に運用することで施設への安定的な搬入を行ったことにより、獣肉解体処理施設稼働1年目にして搬入計画頭数を達成し、ジビエの安定的な供給を強みとして販路拡大につなげている。
- 自立を目指し自分たち自身が動かなければいけないという思いで取り組んだことが評価され、自分たちの気づきや自信につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

子供たちへの食育、そして将来の担い手の育成へ、さらには地域内外の交流の場の創出へとつなげていきます。

かぶしがいしや

株式会社とおわ

～四万十食文化伝承! 伝えていこうとおわのわ～



十和地域に住むおかみさん達



若い道の駅スタッフとともに新たな食文化の発信

経緯

- 四万十町十和地域の深刻な地域課題となっている「高齢化」「産業衰退」「地域コミュニティの衰退」等に立ち向かうべく、十和地域の住民が株主となり2020年7月に「株式会社とおわ」を設立。
- 四万十の食文化を次世代に繋げていくために、地域の若者を積極的に雇用。(正社員9名の平均年齢は30代前半)

取組内容

- (株)十和おかみさん市と連携した郷土料理バイキングの実施。
- バイキングの発展形として、高知市や東京都での出張バイキングや、人気メニューの「原木シイタケのたたき」のタレの商品化、テイクアウトできる「バイキング弁当」の開発。
- 食文化や調理法を継承するためのレシピの書きおこしとコロナ禍での活動。

活動の効果

- 2007年から開始した(株)十和おかみさん市と連携した郷土料理バイキングも、2020年度はコロナ禍で中止となったが、2021年度に四万十流域バイキングとしてリニューアルし、道の駅スタッフも一緒に調理を行い、郷土料理レシピの書きおこしやコロナ対策として大皿から小鉢スタイルへの変更等を行い、1,000名の集客は見込まれる。また、バイキングを継承することで、地域の雇用の創出や、地域で収穫した野菜を食材として買い取ることによる一次産業の活性化、食文化の継承も期待される。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化により継承が危ぶまれるおかみさん市の取り組みを組織として継承し、若い地域住民と共に新しい考え方を取り入れた持続可能な食文化を目指していきます。